

群馬建協に感謝状

鳥インフル対応で県

群馬県は、1月に前橋市で発生した鳥インフルエンザの防疫作業のうち、埋却処分を担った2件に従事した群馬県建設業協会（青柳剛会長）に感謝状を贈った。県農政部の倉澤政則部長が17日に前橋市の群馬建設会館を訪れ、感謝状を手渡した。写真。このほか、同建協前橋支部、群馬県農村整備建設協会、同前橋分会にも感謝状を贈呈した。



倉澤部長は「埋却溝の掘削や殺処分された鳥の積み込み、運搬、投入、雨水対策や立ち入り防止柵の設置など昼夜を通して作業に当たっていただいた。おかげさまで50万羽を超える防疫措置を無事に完了できた」と謝辞を述べた。青柳会長は「渡り鳥の関係で、年度後半に鳥インフルエンザが発生しやすくなることから、年度末の進行形の通常工事との調整対応などを確認し合っておくことが大事になる」と話した。

前橋市の鳥インフル 防疫で県から感謝状 群馬建協と農村整備協会

前橋市で発生した鳥インフルエンザの緊急対応に際し、群馬県建設業協会（青柳剛会長）と群馬県農村整備建設協会（群馬農村整備協会、青柳剛会長）は県からの感謝状を受け取った。山本一太知事名で両協会に、倉澤政則農政部長名で群馬建協前橋支部と群馬農村整備協会前橋分会にそれぞれ贈られた。



青柳会長(左)と倉澤部長

17日に前橋市の群馬建設会館で贈呈式を開いた。倉澤部長は「重要産業である養鶏業を守るため、防疫措置を無事完了していただき感謝する」と述べた。青柳会長は、鳥インフルエンザが頻発する状況を経験し「『地域を守る建設業』の使命感が長続きする仕組みづくりが大切だ」と話し、2023年度に会員向けの研修会を開く意向を示した。



泉野高志群馬建協前橋
支部長(左)と倉澤部長